



～研修の目的～

東日本大震災で複合災害を受けた福島県の過去と現在を見聞し、自分事として捉え、「持続可能な社会」を構築する上での課題とその課題解決のヒントを考える

福島第一原子力発電所事故

2011年3月11日の東日本大震災に伴う地震及び津波により、冷却システムが停止し、原子炉が過熱。1号機、3号機、4号機で**水素爆発**が起こり、放射性物質が大気中や海へ漏洩した。特に周辺地域は深刻な汚染を受け、住民は**長期避難**を強いられた。燃料デブリの取り出しや汚染水処理など多くの課題が残っており、完全廃炉には**数十年**が必要とされている。



東日本大震災・
原子力災害伝承館

★福島第一原子力
発電所

★東京電力廃炉
資料館

★楢葉遠隔技術
開発センター

★ 原子力災害
考証館

様々な立場から見た原発事故

立場によって原発への見方が異なるため、様々な立場の意見を知る必要性を学んだ

	原発への見方(事故前)	原発への見方(事故後)
 政府	福島県を盛り上げる希望	電力需要増→ 全ての原発の稼働が必要
 東京電力	事故の懸念の一方、 低コスト大量発電の希望	廃炉の様子の公開→誠意 原発はこれからも必要
 福島県民	良い面だけの説明→ 事故の可能性を考慮せず	人間関係・コミュニティの 破壊→原発には消極的

↑主な見学場所(★の箇所)

その他、中間貯蔵情報センター、
震災遺構浪江町立請戸小学校
も見学をした。

廃炉に向けて

ロボットを用いた遠隔操作は人が近づけない場所で大いに役立ち、被爆などの**作業リスクの低減**にもつながっている



私たちと原発

〈課題〉

- ・電力不足による次世代産業の育成が困難
- ・現在のエネルギー自給率では、有事への対応が困難

〈これから生きる私たちへ〉

- ・原子力発電事故を**自分事**としてとらえてほしい
- ・原子力発電事故の知識を深め、**偏見や風評をなくす必要がある**
- ・すべてのものには**必ず利点、欠点が存在する**

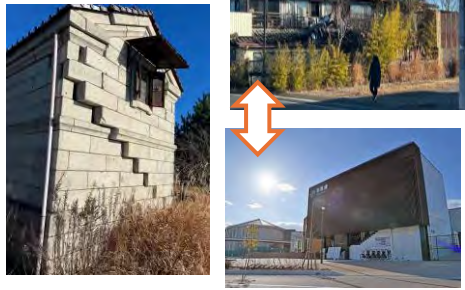
原子力災害被災地域の様子(国道六号線、双葉駅周辺)

国道六号線



2014年から徐々に通行規制が緩和されたが、現在でも震災当時の状況が残っており、地震の被害の様子を知ることができる

双葉駅周辺



双葉駅は復興の拠点として整備された一方、駅周辺は人があまりいない上に廃墟や更地が広がっており、**復興が進んでいると言いはり難い**

〈提言〉

- ・世界的に電力の中心は**脱炭素**が望まれており、日本で原発は効率的な発電においてどうしても必要なものだ
- ・「原発」と「再エネ」を**並行**して発電していくことが日本の電力事情の早期解決につながると考える
- ・事故が起きないように**最大限の対策**を行うのは大前提として、万が一事故が起きた際の住民への**負担を最小限にした対応策**をあらかじめ提示しておくべき